（様式式第４号－２）

研　修　区　分　表

平成 25 年 9 月 20 日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
1　職務の理解（6 時間）	**6**	－	－	**6**	**（到達目標）（評価の基準）** 2000（H12）年の介護保険法の施行以後、それまで主に家族により支えられてきた介護は、社会全体で支える方向に向かっています。サービスを提供する場面は、施設や居宅などさまざまです。人は、高齢者であっても、障害者であっても、個人として尊重され自立した生活を送り、社会、文化などあらゆる活動に参加する権利があります。これらの実現のために、介護職がどのような仕事を行うか、具体的なイメージを持って実感し、以後の研修に実践的に取り組めるようになることが求められます。 **（指導の視点）** ・研修課程全体（130 時間）の構成と各研修科目（10 科目）の相互関係・全体像を事前にイメージできるようになります。 学習内容を、体系的に整理し、知識を効率的・効果的に学習できるような素地の形成を促します。視聴覚教材等を活用し、施設見学を組み合わせ、介護職が働く現場や仕事の内容を具体的に理解します。
(1) 多様なサービスの理解	**3**	－	－	**3**	**（内容）** 1.　介護と介護保険制度の意義 ①介護保険制度の意義 ②介護保険制度の下での介護
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	**3**	－	－	**3**	**（内容）** 1.　多様なサービスと介護職の仕事、働く現場 ①訪問介護サービス ②小規模多機能型居宅介護 ③介護老人福祉施設、介護老人保健施設等 ④認知症対応型グループホーム ⑤居宅介護サービス（訪問介護サービス以外） ⑥介護保険以外のサービス（障害者支援施設、宅老所） 2.　介護職の資格体系の見直し、キャリアパスの全体像 ①初任者研修修了段階（介護職への入職段階） ②介護福祉士取得段階 ③認定介護福祉士（仮称）段階 3.　介護の理解と現任者研修 ①OJT（ｵﾝ･ｻﾞ･ｼﾞｮﾌﾞ･ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ：職務を通じての研修） ②OFF-JT（ｵﾌ･ｻﾞ･ｼﾞｮﾌﾞ･ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ：職務をはなれての研修） 4.　介護現場で求められる OJT ①介護職を育成する OJT ②OJT の機会と方法 5.　介護職のキャリアにつながる OJT ①初任者研修修了後の場合 ②職務能力（できること、できないこと）の評価と振り返り（リフレクション）

					③介護職のキャリアアップにつながる契機：現任者研修で大切にしたいこと 6. OJT・OFF-JT の実際 ①施設介護サービス ②通所介護サービス ③訪問介護サービス **【演習の実施方法】** 特別養護老人ホームと訪問介護事業所を例に職業としての介護を紹介し、介護職のイメージについて話し合う。

（様式第４号－２）

研　修　区　分　表

平成 25 年 9 月 20 日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
2　介護における尊厳の保持 自立支援（9 時間）	**9**	－	－	**9**	**（到達目標）** 介護に携わる専門職として、「基本的人権」や「個人の尊厳」について、日常の一つ一つの動作や会話のなかに生きてくる基本姿勢として基本的視点及びやってはいけない行動例を理解します。 **（評価ポイント）** ・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL,ﾉｰﾏﾗｲｾﾞｰｼｮﾝ、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。 ・虐待の定義、身体拘束およびサービス利用者の尊厳、ﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰを傷つける介護についての基本的なﾎﾟｲﾝﾄを列挙できる。 **（指導の視点）** ・　利用者や家族の要望にそのまま応えることと、自立支援、介護予防の考え方に基づくケア等との違いを、具体的な事例を複数示して学び、自立の概念について気づきを促す。 ・　利用者の保有能力の活用、自立支援や重度化の防止、遅延化に資するケアへの理解を促す。 ・　利用者の尊厳を傷つける言動やその理由について考え、尊厳という概念に対する気づきを促す。 ・　虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。 ・
（1）人権と尊厳を支える介護	**4**	**－**	**－**	**4**	**（内容）** 1.　個人としての尊厳 ①　人間としての尊厳 ②　日本における基本的人権 ③　基本的人権と介護・医療 2.　権利擁護 ①　権利擁護とアドボカシー ②　エンパワメント ③　エンパワメントやアドボカシーが必要な人 3.　個人の尊厳と価値 ①　理解と尊厳の保持 ②　介護における価値 4.　社会的役割の実感 ①　自己決定と尊厳 ②　社会的な役割と実感 5.　介護分野における ICF（国際生活機能分類） ①　アセスメントと ICF ②　アセスメントの視点―食事介護の場合 ③　ICF と家事支援の観察ポイント 6.　QOL（Quality of life　生活の質） ①　生活の質の捉え方 ②　内的 QOL と外的 QOL 7.　生活の質と人間の尊厳 ①　尊厳ある暮らし ②　マズローの欲求段階説と自己実現

					8.　ノーマライゼーションの理念と実際 　　①　ノーマライゼーションとは 　　②　ノーマライゼーションの原理 　　③　ノーマライゼーションの実現 9.　ノーマライゼーションの歴史 　　①　北欧でのルーツ 　　②　アメリカから世界に普及 　　③　日本の福祉への理念の普及 10. 高齢者虐待防止法 　　①　成立まで経緯 　　②　高齢者虐待防止法の概要 11. 身体拘束禁止 　　①　身体拘束 　　②　緊急やむを得ない場合の対応 12. 個人情報保護法 　　①　個人情報保護法の概要 　　②　「個人情報」における本人の同意
(2) 自立に向けた介護	**3**	**－**	**－**	**3**	**（内容）** 1.専門職として求められる「自立」と「自律」 2.自立支援のための介護方法 　　①　利用者の持つ力を最大限に活かしたケア 　　②　できる行為を増やす介護（意欲を高める支援） 　　③　重度化防止 3.介護予防と健康寿命 　　①　予防のイメージ 　　②　健康寿命 4.介護保険と介護予防 　　①　介護保険制度との関係 　　②　基本チェックリスト 5.介護予防と社会的入院 **【演習の実施方法】** 自立に向けた介護を目指すに当たり、できる行為を増やす介護の「意欲を高める支援」について、グループで話し合う。
(3) 人権に関する基礎知識	**2**	**－**	**－**	**2**	**（内容）** 1.　人権に関する基本的な知識 2.　同和問題等

（様式第４号－２）

研　修　区　分　表

平成 25 年 9 月 20 日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
3　介護の基本（6 時間）	**6**	**－**	**－**	**6**	**（到達目標）** 介護をおこなうには、介護に必要な基本的な知識や技術に加え、専門性、職業倫理、介護を必要としている人の個別性の理解をし、その人の生活を支える視点から支援が求められる。 **（修了時の評価ポイント）** ・　家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。 ・　サービスごとの特性、医療、看護との連携の必要性について列挙できる。 ・　職業倫理の重要性の理解、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点についてポイントが列挙できる。 ・　生活支援の場で起こる典型的な事故や感染、介護時のリスクを列挙できる。 ・　介護職のストレス・健康障害に対する管理やストレスマネジメントのあり方や留意点を列挙できる。 **（指導の視点）** ・　可能な限り、具体的な事例を示す等の工夫を行い、専門性に対する理解を促す。 ・　介護におけるリスクに気づき、サービス提供責任者や医療職等との連携により、対応することの重要性を実感できるよう促す。
（1）　介護職の役割、専門性と多職種との連携	**2**	**－**	**－**	**2**	**（内容）** 1.　介護環境の特徴 　①　訪問介護サービス 　・　サービス提供責任者による訪問介護計画の作成 　・　サービス提供責任者と訪問介護員の連携 　・　訪問介護サービスの特徴 　②　施設介護サービス 　・　社会的な役割と実感施設ケアマネージャー 　・　他職種との連携 　・　施設介護サービスの特徴 2.　介護の専門性 　①　重度化防止・遅延化の視点 　・　介護予防の考え方 　・　意欲を引き出す介護 　②　利用者主体の支援姿勢 　・　利用者の理解 　・　自立支援 　・　生命維持からその人らしい生活の維持 3.　根拠のある介護 4.　事業所内のチーム、多職種から成るチーム 　①　チームケアの重要性 5.　医行為と医療的ケア 6.　介護に関わる職種の機能と役割

					【演習の実施方法】 他職種の情報を共有する事が、利用者にどのようなメリットがあるのか、話し合う。
(2) 介護職の職業倫理	1	−	−	1	**（内容）** 1. 介護職の職業倫理 ① 法令遵守 ・ 介護保険法等による介護職の役割 2. 利用者の個人の尊厳と介入 3. 日本介護福祉士会の倫理綱領
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	−	−	2	**（内容）** 1. 介護における安全確保の重要性 ① 介護職の責務 ② 介護保険制度上の規定 2. リスクマネジメント ① リスクとハザード ② リスクマネジメントの必要性 3. リスクマネジメントにおける重要な要素 ① アセスメント ② リスクに対応できる組織 ③ 介護職の正確な知識と技術 ④ 利用者や家族とのコミュニケーション 4. 危険予知と事故予防 ① 組織的な検討 ② チームでの検討 5. 事故発生時の対応 ① 利用者の状況確認 ② 報告 ③ 記録 ④ 再発防止 ⑤ 具体的な事例 5. 緊急時に必要な知識と対応方法 ① 想定される事故 ・外傷、骨折、熱傷、誤嚥、熱中症 ② 応急手当 ・観察の方法・対応 ③ 応急手当の実際 ・外傷、骨折、熱傷、誤嚥 ④ 一次救命処置の実際→流れ 7. 感染症対策 ① 感染症の種類とその特徴 ② 高齢者に起こりやすい感染症 ③ 抵抗力と薬剤の関係 ④ 注意すべき感染症とその対応 ・ウイルス性肝炎、疥癬、肺炎、尿路感染症、梅毒、流行する感染症 ⑤ 感染症の予防と対策 ・ 予防、適切な消毒方法、正しい予防法
(4) 介護職の安全	1	−	−	1	**（内容）** 1. 介護職の心身の健康管理 ① 介護の質に影響を与える健康管理 ② 介護職に起こりやすい健康障害 ③ 腰痛予防 ④ 感染症予防→手洗い、うがいの励行

					⑤　ストレスマネジメント **【演習の実施方法】** 感染症予防のための、正しい手洗いの方法について実践する。

（様式第４号－２）

研　修　区　分　表

平成 25 年 9 月 20 日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
4　介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9 時間）	9			9	**（到達目標）** 介護の社会的ニーズに対応するためには創設された公的介護保険制度や障害者総合支援制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。 **（修了時の評価ポイント）** ・　わが国の高齢化の状況を認識して、社会的な背景や介護ニーズの高まり等、生活全体の支援の中で、介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について、列挙できる。 ・　介護保険制度や障害者総合支援制度の概念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について、列挙できる。 ・　ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。 ・　高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見制度の目的、内容について列挙できる。 ・　医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて列挙できる。 **（指導の視点）** ・　介護保険制度、障害者総合支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ・　利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度・障害者総合支援制度・その他の制度やサービスの位置づけや、代表的サービスの理解を促す。
（1）介護保険制度	1	－	－	1	**（内容）** 1.　介護保険制度創設の背景と目的、動向 ①　要介護高齢者の介護ニーズの高まり ②　これまでの高齢者保健福祉制度 ③　介護保険法の成立・目的 ④　介護保険導入前の制度との違い ⑤　介護保険導入後の制度の定着状況 ⑥　2006（H18）年の制度改正 ・施設給付の見直し ・予防重視型システムの転換 ・地域密着型サービスの創設 ⑦　2009（H21）年の制度改正 ⑧　2012（H24）年の制度改正 ・地域包括ケアシステム推進 ・医療と介護の連携強化等 ・介護人材の確保とサービスの質の向上 ・認知症対策の推進 2.　介護保険制度の仕組みと基礎的理解 ①　保険制度としての基本的仕組み

					②　利用者負担 ③　サービス利用の流れ ④　要介護者、要支援者の定義 ⑤　要介護（支援）認定の手順 3.　介護保険サービス（介護給付・予防給付） ①　サービスの種類・内容 ・居宅介護支援 ・居宅サービス ・地域密着型サービス ・施設サービスとその種類・内容 4・地域支援事業、市町村特別給付 ①　地域支援事業 ②　市町村特別給付 5.介護保険制度の財源、組織、団体の機能と役割 ①　制度運営の役割分担 ・国・都道府県・市町村・国保連 ②　介護保険事業計画 ③　介護サービス事業者の質の確保 ・事業者指定基準 ・介護サービス事業所に対する指導及び監査 ④　苦情への対応 ⑤　情報公表、第三者評価 6.医療保険制度の概要 ①　日本の医療保険制度 ②　医療保険制度の体系 ③　保険診療の仕組み ④　保険給付―現金給付と現物給付 ⑤　高額療養費 ⑥　高額医療・高額介護合算療養費 ⑦　医療費の自己負担 ⑧　後期高齢者医療制度の概要 7.　年金保険制度の概要 ①　日本の年金保険制 ②　年金保険の内容と給付 8.高齢者の服薬と留意点 ①　介護職員による服薬介助 ②　薬剤の服用と観察 ③　薬剤の副作用 ④　多くの飲まれている薬と注意事項 ⑤　高齢者に対する薬 ⑥　高齢者に特有の副作用 ⑦　高齢者の服薬と注意事項 **【演習の実施方法】** 介護サービスを利用するまでの手続きを図式化し、申請方法、サービス利用までの経過をシュミレーションする。
（2）の①　医療との連携とリハビリテーション	**2**	－	－	**2**	**（内容）** 1.リハビリテーション医療の意義と役割 ①　リハビリテーションの理念 ②　リハビリテーション医療の流れ ・自立 ・ICF とリハビリテーション ・生活の質（QOL:Quality　of life） ・日常生活動作（ADL：Activities of daily living）

					・リハビリテーション医療と自立・医療と介護の連携 2.リハビリテーション医療の過程 ① 急性期リハビリテーション ・脳血管疾患 ・大腿骨頚部骨折 ・不全頚髄損傷 ② 回復期リハビリテーション ③ 維持期リハビリテーション 3.訪問・通所・地域リハビリテーション ① 訪問リハビリテーションのサービス ② 通所リハビリテーションのサービス ③ 通所リハビリテーションのサービス
（2）の② 医療との連携とリハビリテーション	**3**			**3**	**（内容）** 1. 経管栄養、吸引、吸入、浣腸など ① 経管栄養による栄養管理 ② 吸引、吸入、浣腸 ③ 摘便、ストーマの取扱い、自己導尿の介助 ④ 褥瘡の予防と処置 ⑤ 褥瘡の予防と処置 ・爪切り、口腔内の清潔、耳の保清、やけど、擦り傷などの処置 ⑥ 施設における介護と看護の役割・連携 2. 健康チェックに必要な身体観察の視点と観察技術 ① 高齢者の身体の特徴 ② 身体観察の技術 ③ 全身観察の着眼点 ④ 体温・脈拍・血圧・呼吸の測定による観察の方法 ・体温の測定法 ・脈拍の測定法 ・血圧の測定法 ・酸素飽和度モニター（パルスオキシメーター）装着 ⑤ 他職種との連携のための観察やケアから得た情報の提供 3. 訪問看護ステーション ① 訪問看護を受けるまで ② 訪問看護と訪問介護の連携 ・在宅における療養生活の支援 ③ 連携による効果的な支援方法の統一 ④ 観察力と記録・連絡・報告
（3）障害者総合支援制度及びその他の制度	**3**	－		**3**	**（内容）** 1. 制度創設の理念・背景と目的 ① 障害者基本法における障害 ② 身体障害者福祉法における定義 ③ 知的障害者の定義 ・療育手帳の交付 ・「知的障害児（者）基礎調査」における知的障害の定義 ④ 「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」における定義 ・保健福祉手帳の交付 ⑤ 発達障害者支援法における定義 ・発達障害児の発見と専門機関

					2. 障害者（児）福祉の背景と動向 ① 終戦後から「国際障害者年」以前 ② 「国際障害者年」から「社会福祉基礎構造改革」へ ③ 支援費制度と障害者自立支援法、発達障害者支援法の制定 ④ 障害者福祉の今後の動き 3. 障害者雇用と就労状況 4. 障害者サービスのしくみと基礎的理解 ① 障害者自立支援法の概要 ・対象 ・サービス体系 ・支給決定 ・相談支援と地域自立支援協議会 ・利用者負担 ・障害福祉計画 ・所得の保障 5. 個人の権利を守る制度の概要 ① 消費者基本法の成立までの経緯・概要 ② クーリングオフの制度 6. 障害者虐待防止法 ① 成立までの経緯・概要 7. 福祉サービス第三者評価 ① 成立経緯と目的 ② 福祉サービス第三者評価の利用 8. 成年後見制度 ① 成立の経緯と目的 ② 成年後見制度の利用 9. 日常生活自立支援事業 ① 成立の経緯 ② 日常生活自立支援事業による権利擁護 ・事業目的 ・対象となる利用者と介護職に必要な視点 ・守るべき利用者の権利 ・介護職に求められる職業倫理と役割 ・援助内容と福祉サービス利用者の権利 ・介護者が留意すべき点 ・援助のプロセス **【演習の実施方法】** 誰もが障害者になりうることを学び、社会保障制度を、日常生活の中で、活用できるところを話し合う。

（様式第４号－２）

研　修　区　分　表

平成 25 年 9 月 20 日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
５　介護におけるコミュニケーション技術　（6 時間）	6	－	－	6	**（到達目標）** コミュニケーションという言葉は、とても身近な日本語になり、明確な定義は簡単ではありませんが、コミュニケーションの成り立ち、役割を理解し、高齢者や障害者のコミュニケーション能力が一人ひとり異なる中、その違いの認識をして、専門職として、利用者との実践に活かせる技術を学びます。初任者として最低限取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。 **（修了時の評価ポイント）** ・　共感、受容、傾聴的な態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。 ・　家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職として持つべき視点を列挙できる。 ・　言動、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。 ・　記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。 **（指導の視点）** ・　利用者の心理の理解・人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションの有り方、その要因について考え、相手の心身の状態に合わせた配慮の必要性について、気づくよう促す。 ・　専門職間のチームケアにおいて、コミュニケーションの有効性、重要性を理解し、記録等を作成する。一人ひとりの介護職が、大切な位置づけを持つ意味や気付きを促す。
（１）介護におけるコミュニケーション	3	－	－	3	**（内容）** 1. 介護におけるコミュニケーションの意義と目的・役割 ①　コミュニケーションの二つの領域 ②　人にとって不可欠なコミュニケーション ③　コミュニケーション手段の発達による成果と課題 ④　コミュニケーションの基本要素（定義） ⑤　コミュニケーションの二つのレベル ⑥　コミュニケーションの目的、手段、方法 ⑦　相手のコミュニケーション能力の判断 ⑧　働きかけによる観察 ⑨　障害に応じたコミュニケーション能力への理解 2. コミュニケーションの手段と技法 ①　言語的コミュニケーションの特徴と種類 ②　非言語的コミュニケーションの特徴と多様な役割 ③　非言語的コミュニケーションの種類

					④　介護現場で有効な非言語的コミュニケーション 3.利用者・家族への対応の基礎知識 ①　カウンセリングマインドの基本 ②　傾聴・受容 ③　受容による効果 ④　共感 ⑤　同情と共感の違い ⑥　自己覚知 ⑦　肯定的・否定的コミュニケーション ⑧　コミュニケーションと自我状態 ⑨　悪いコミュニケーションとその例 ⑩　良いコミュニケーションとその例 4.利用者・家族への対応の実際 ①　利用者、家族の思いを把握するコミュニケーション ②　傾聴的な態度の実際 ③　利用者、家族の意欲低下の要因 ④　マイナス感情の軽減と苦悩や感情への共感 ⑤　利用者との信頼関係を結ぶコミュニケーションの個別化 ⑥　利用者との安定した信頼関係 ⑦　介護と個人情報の秘密保持 ⑧　非審判的態度 5.家族へのいたわりと励まし ①　家族の心理的理解 ②　家族への支えとなる働きかけ ③　地域の社会資源の活用による家族の負担軽減 6.利用者の状況・状態に応じた対応 ①　聴覚障害者 ・聾の方の傾向、筆談の特徴と応用、手話の特徴と応用、読話の特徴と応用、発語の特徴と応用高齢難聴者の傾向と配慮 ②　視障害者覚 ・傾向、コミュニケーション ③　盲ろう者 ・コミュニケーションと配慮 ④　失語症 ・コミュニケーション方法や配慮 ⑤　構音障害に応じたコミュニケーション ・運動障害性構音障害の特徴とコミュニケーション ・喉頭摘出による無喉頭音声、食道発声によるコミュニケーションと配慮 ⑥　認知症に応じたコミュニケーション ・認知症の特徴とコミュニケーションの留意点 ・アルツハイマー型認知症の特徴とコミュニケーションの留意点 ⑦　高次脳機能障害に応じたコミュニケーション ・特徴と傾向 ・コミュニケーションの留意点 **【演習の実施方法】** 対面する位置や距離について、それぞれの空間に立ち、非言語的コミュニケーションについての理解を深める。

（2）介護におけるチームコミュニケーション	**3**	**－**	**－**	**3**	**（内容）** 1.記録による情報の共有化 ①　記録の意義・目的 ②　記録の種類 ③　記録するために必要なこと ・観察力、個別援助計画の目標 ④　記録の手法 ・５Ｗ２Ｈ・SOAP ⑤　記録の基本とポイント ⑥　記録に関わる法令 ・記録の義務 ・利用者への提供 ・保存期間（介護保険法、障害者自立支援法） ⑦　個人情報に関する法律 ⑧　情報開示 ・法的根拠 ・情報開示と記録 ⑨　介護サービス情報の公表制度 ・制度創設の背景 ・介護サービス情報 ・事業者指定との関係 ・公表制度の目指すもの 2.報告・連絡・相談 ①　報告・連絡・相談の意義・目的 ②　報告・連絡・相談を行う相手 3.コミュニケーションを促す環境 ①　会議の種類と会議に臨む姿勢 ②　ケアカンファレンス ③　サービス担当者会議 ・根拠法 ・意義と目的 ・開催時期 ・テーマの設定 ・参加者 ・準備 ・参加後の処理 4.事例研究・事例報告 ①　意義と目的、展開過程、報告のまとめ方 **【演習の実施方法】** グループに分かれて、模擬カンファレンスのロールプレイングを行う。

（様式第４号－２）

研　修　区　分　表

平成 25 年 9 月 20 日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
6　老化の理解（6 時間）	**6**	－	－	**6**	**（到達目標）** 老年期の発達の特性を理解し、加齢に伴い、心身がどのように変化していくのかを知り、高齢者の人格を尊重し、いつまでも尊厳の保持ができるように支援するため、学習の継続事項を理解している。 **（修了時の評価ポイント）** ・　老年期の生理的変化・心身の変化を列挙できる。 ・　老年期の特徴、社会、身体、精神、知識能力面などの変化に着目した心理的特徴について、列挙できる。 ・　高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴および治療・生活上の留意点、および高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。 **（指導の視点）** 高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において、生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。
（1）老化の伴うこころとからだの変化と日常	**2**	－	－	**2**	**（内容）** 1.　老年期の発達と心身の変化の特徴 ①　加齢と老化の概念 ・いろいろな老化学説（遺伝子プログラム説・消耗説・体細胞分裂寿命説・遺伝子修復エラー説・フリーラジカル説） ②　高齢者の定義 ③　喪失体験 ・身体機能の低下と自信の喪失 ・社会的役割の喪失 ・家族等とのつながりの喪失 ④　防衛機制 ⑤　人格と尊厳 ・人格とは、「尊厳の保持」と法律、高齢者の尊厳 ⑥　老いの価値 ⑦　性役割と老年期の性 ・性役割に対する価値観 ・老年期の性 2.心身の機能の変化と日常生活への影響 ①　老化に伴う心身の機能の変化 ②　身体的変化 ・外観・外皮系（姿勢・皮膚・毛髪） ・骨格系（骨粗しょう症・変形性関節症） ・筋肉系 ・神経・感覚系（神経系・感覚器系） ・内分泌系 ・循環器系(心臓血管系・リンパ系) ・呼吸器系 ・消化器系

					・泌尿器系 ・生殖器系 ・体温調整系 ③　心理的変化 ・人格・知能・記憶 **【演習の実施方法】** 老いに伴う身体的機能の変化について、図（体の絵）に書き込みながら、理解を深める。
（2）高齢者と健康	**4**	－	－	**4**	**（内容）** 1. 高齢者と疾病（老年症候群）と生活上の留意点（外科系） ①　老年症候群とは ②　老年症候群の早期発見 ③　運動器の機能向上 ・対象者 ・ケアの方法（立ったり、座ったり、移動に関わる筋肉を刺激すること・スロートレーニング・徐々に動作のレベル・筋肉への刺激を増加させていくこと） ・慢性期の痛みへの対応 ・口腔機能の改善→かむ能力の重要性、ケアの方法 ・低栄養の改善→低栄養にうつる原因、ケアの方法、食品の多様性を理解する。 ・認知機能を高める→認知機能の低下、ケアの方法（料理・外出・運動） ・尿失禁の改善→尿失禁のタイプ・ケアの方法 2.高齢者に多い病気と生活上の留意点（内科系） ①　生活習慣病（高血圧・糖尿病・脂質異常賞・メタボリックシンドローム・高尿酸血症・痛風・脂肪肝・アルコール性肝疾患・喫煙と関連する疾患） ②　脳神経系の病気（脳血管疾患（脳卒中）の分類・原因・症状・特徴・生活上の留意点、パーキンソン病） ③　循環器系の病気（虚血性心疾患、心臓弁膜症、心不全不整脈） ④　呼吸器系の病気（喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、呼吸不全） ⑤　肝臓、胆道系の病気（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、胆石症、胆嚢炎） ⑥　腎・泌尿器の病気（慢性腎臓病、前立腺肥大、前立腺がん） ⑦　骨や関節の病気（骨粗しょう症、変形性膝関節症、変形性背椎症、関節リュウマチ） ⑧　精神の病気（老年期うつ病、神経症） ⑨　目と耳の病気（白内障、緑内障、加齢性難聴） ⑩　皮膚の病気（皮膚掻痒症、白癬症）

（様式第４号－２）

研　修　区　分　表

平成 25 年 9 月 20 日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
7　認知症の理解（6 時間）	**6**	－	－	**6**	**（到達目標）** 認知症になっても、進行しても、「恥ずかしさや情けなさを感じさせない関わり」が必要である。介護において、認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断基準となる原則を理解している。 **（修了時の評価ポイント）** ・　認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。 ・　健康な高齢者の「物忘れ」と認知症の中核症状と行動、心理症状（BPSD）等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。 ・　認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に若年性認知症の特徴についても列挙できる。 ・　認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。 ・　認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について主要なキーワードを列挙できる。 ・　認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。 ・　家族の気持ちや家族が受けやすいストレスについて列挙できる。 **（指導の視点）** ・　認知症の利用者の心理、行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。 ・　複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。
（1）認知症を取り巻く状況	**1**	－	－	**1**	**（内容）** 1.　認知症を取り巻く状況 ①　認知症ケアの理念 ②　パーソンセンタードケア ③　認知症ケアの視点
（2）医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	**2**	－	－	**2**	**（内容）** 1.　認知症の概念と原因疾患とその病態 ①　認知症の概念 ・加齢による“もの忘れ”と認知症の違い ②　認知症の中核症状 ・記憶障害、見当識障害、実行機能障害、失語、失行、失認 ③　認知症の原因疾患の診断 ・アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症

					④　認知症の治療 ・認知症に使用される薬 ⑤　認知症と間違いやすい症状 ・仮性認知症、せん妄 ⑥　治療可能な認知症 ・内科疾患、脳外科疾患 2.　認知症についての最近の話題 ①　軽度認知障害（(MCI) ②　若年性認知症 3.　原因疾患別ケアのポイントと健康管理 ①　長期にわたる食生活の偏り ・頻繁に徘徊する人 ・食事に関心を示さない人 ・嚥下機能に障害のある人 ②　脱水 ③　便秘 ④　低栄養 ⑤　運動量の低下 ⑥　廃用症候群（生活不活発病） ⑦　口腔ケア **【演習の実施方法】** グループに分かれ、「もしも、自分が認知症になったら」と題して、話し合う。
（3）認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	**2**	－	－	**2**	**（内容）** 1.　生活障害、心理・行動の特徴 ①　認知症の人の心の内 ・不安とともに生きる、抑うつ ②　周辺症状（BTSD）に見る認知症の人の思い ・周辺症状の成り立ち ・周辺症状に影響するケアのあり方 ・ケアでは解決できない周辺症状 ・訴えに気づき、原因を探る。 ③　原因疾患による認知症症状の違い ・アルツハイマー型認知症 ・脳血管性認知症 ・レビー小体型認知症 2.　利用者への対応 ①　ケアのあり方と周辺症状 ・認知症の人からのメッセージ ・ケアの中にある強制を減らす ・言葉にこだわらず、納得できる関わり ②　認知症症状の背景を読み解く ・物盗られ妄想 ・不潔行為 ③　認知症の人の気持ちを満たす努力 ④　認知症ケアを実践する難しさ ⑤　施設ケア特有の難しさ ⑥　認知症症状を観察するときのポイント ⑦　なじみの人間関係 3.　非薬物療法 ①　回想法 ②　リアリティ・オリエンテーション ③　音楽療法 ④　行動療法

（4）家族への支援	1	－	－	1	**【演習の実施方法】** 事例を通して、認知症の人の出すサインや思いなどを、話し合う。 **（内容）** 1.　家族との関わり方 ①　認知症の受容過程での援助 ・家族の叱責 ・良好な関係 ・身近な人の前での症状 ・症状の進行の推測 2.介護負担の軽減（レスバイトケア）

（様式第４号－２）

研　修　区　分　表

平成 25 年 9 月 20 日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
8　障害の理解（3 時間）	3	－	－	3	**（到達目標）** 介護者として、障害者（児）を支援するとき、どのような考え方に基づいて、サービスが提供されるべきか、どのような目標を持って支援したらよいかなど、障害者福祉の基本的な考え方を理解することが重要です。障害者福祉を学ぶ上で、「障害とは何か」という課題は重要な事柄で、介護における基本的な考え方について理解している。 **（修了時の評価ポイント）** ・　障害の概念と ICF について概説でき、各障害の内容、特徴および障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。 ・　障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。 **（指導の視点）** ・　介護において障害の概念と ICF を理解しておくことの必要性の理解を促す。 ・　高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。
（１）障害の基礎的理解	1	－	－	1	**（内容）** 1.　障害の概念と ICF（障害者福祉の基本理念） ①　共通する障害者福祉の理念 ②　時代の変化の中での障害者福祉の理念 ・「完全参加と平等」および「機会均等化」－国際障害者年 ・「個人の尊厳」と「完全参加」－障害者基本法 ・「リハビリテーション」と「ノーマライゼーション」－障害者プラン ・「自立した日常生活」、「地域福祉の増進」、「本人の意向の尊重」—社会福祉法 ・地域社会のなかでの自立した生活の実現と社会—障害者自立支援法 ③　障害の概念と国際生活機能分類（ICF） ・国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）への移行 ・　国際生活機能の特徴
（２）障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	－	－	1	**（内容）** 1．肢体不自由（身体障害） ①　代表的な病気とその障害像 ・脳卒中（脳血管疾患） ・脊髄損傷 ・間接リュウマチ ・脳性マヒ ②　生活援助のポイント ・残存機能の活用

					・福祉用具の活用 ・介護技術とリハビリテーション ③　廃用症候群（生活不活発病） ④　障害の受容 ２．内部障害 ①代表的な疾患・障害 ・慢性呼吸不全（呼吸器機能障害） ・循環器疾患・心不全（心臓機能障害） ・慢性腎不全、血液透析（腎機能障害） ②．生活援助のポイント ・日常活動量 ・自己管理 ・介護とリハビリテーション ③その他の疾患・障害 ・膀胱・直腸機能障害 ・小腸機能障害 ・免疫機能障害（ヒト免疫不全、ウィルスによる免疫機能障害） ・肝臓機能障害 ３．視覚障害・聴覚障害 ①視覚障害 ・疾患、白内障、緑内障、ほかの障害との合併 ・心理面の理解 ・日常生活への援助（自宅内の生活・屋外移動） ②聴覚障害 ・疾患 ・心理面の理解 ・日常生活への援助 ③平衡機能障害 ・平衡機能障害とは ・原因と対応 ４．音声・言語・咀嚼機能障害 ①失語症とその対応 ②構音障害、発声障害 ③咀嚼・嚥下機能障害 ５．精神障害 ６．統合失調症 ①破瓜型統合失調症 ②緊張型統合失調症 ③妄想型統合失調症 ④症状、初発症状 ⑤経過 ⑥治療（薬物療法とリハビリテーション） ⑦日常生活援助のなかでの介護者の役割と限界 ⑧日常生活援助の方法と留意点 ７．躁うつ病等 ①病態、分類 ②症状、初発症状 ③経過 ④治療（抗うつ薬、気分安定薬） ⑤日常生活援助のなかでの介護者の役割と限界 ⑥日常生活援助の方法と留意点 ８．神経症性障害（神経症） ①不安障害・恐怖症性不安障害 ②強迫性障害 ③解離性障害

					④身体表現性障害 ⑤ストレス関連障害 ⑥症状と経過、患者さんの心理、介護者としての望ましい関わり方 ９．アルコール依存症 ①病態と症状 ・身体的問題 ・精神的問題 ・社会的問題 ②日常生活援助のなかでの介護者の役割と限界 １０．知的障害 ①知的障害の特徴 ・知的障害とは、症状について ②日常生活を支援するポイント ・支援の方法、支援のポイント １１．発達障害 ①発達障害の特徴 ・自閉症（広汎性発達障害）、対人関係、社会性の障害、コミュニケーションの障害、興味の限界、常用行動 ・注意欠陥多動性障害（ADHD） ・学習障害 ②日常生活を支援するポイント ・見えないものを理解することの困難 ・コミュニケーションの障害 ・環境づくり ・応用の難しさ ・こだわりへの対処 １２．ダウン症 ①ダウン症の特徴、症状 ②日常生活を支援するポイント １３．高次脳機能障害 ①原因疾患 ・記憶障害 ・注意障害 ・遂行機能障害 ・半側空間無視 ・社会的行動障害 ②診断基準 ③評価方法 ④対応方法
（３）家族の心理、かかわり支援の理解	**1**	－	－	**1**	**（内容）** １．介護する家族の遭遇するストレス ①家族の変化と介護力の低下 ②家族関係のアセスメント ③介護による負担 ④介護者に多い、精神的ストレス ・人間関係によるストレス ・怒りや恨み、孤独感などによる精神的苦痛 ２．障害の理解と受容支援 ①障害受容のプロセス ・先天性障害と中途障害 ・家族にとっての障害の受容 ②介護する家族の類型 ・現状逃避型、抱え込み型、周囲依存型

					３．介護負担の軽減 ①専門相談機関や民間介護相談の活用 ②地域の社会資源の活用 **【演習の実施方法】** 事例に基づき、障害の受容のプロセスをグループに分かれて、話し合う。

（様式第４号－２）

研　修　区　分　表

平成 25 年 9 月 20 日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
９　こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）	69	－	6	75	**（展開）** 基本知識の学習の後に、生活支援技術等の学習を行い、最後に事例に基づく総合的な演習を行う。 **（到達目標・評価の基準）** ・　介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・　尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅、地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 **（修了時の評価ポイント）** ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。 ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。 ・利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。 ・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。 ・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。 ・家事援助の機能と基本的原則について列挙できる。 ・装うことや整容の意義について解説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。 ・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・　ターミナルケアの考え方、対応のしかた・　留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙でき

					る。 **（指導の指針）** ・介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。 ・サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。 ・例えば「食事の介護技術」は「食事という生活の援助」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事が提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 ・　「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。
〔Ⅰ基本知識の学習〕 **（1）介護の基本的な考え方**	1	－	－	1	**（内容）** 介護職は、利用者の状態・状況を把握し、状態・状況に応じた介護を提供するとともに、要介護状態の軽減や予防を考えながら、行なう。 1. 理論に基づいた介護 ① 介護とは ② 見えにくい部分が多い介護 ③ 根拠に基づいた介護 ④ ICF の視点に基づく生活支援 2.法的根拠に基づく介護 ① 法令遵守 ② 状態の軽減、悪化の防止 ③ 医療職との連携
（2）介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	－	－	4	**（内容）** 1.学習と記憶に関する基礎知識 ①学習の諸理論 ・古典的条件づけ（レスポンデント条件付け） ・道具的条件づけ（オペラント条件付け） ・観察学習（モデリング） ②記憶のメカニズム ・記憶の段階 ・記憶の分類（感覚記憶、短期記憶、長期記憶） ③海馬と扁桃体 2.感情と意欲に関する基礎知識 ① 感情とそれに類似する概念 ② 思考と認知の概念 ③ 体力と意欲（やる気）の関係 3.自己概念と生きがい ① 基本的欲求と自己有用感 ・自己概念 ・基本的欲求 ・他者との関係における自己有用感 ②障害を持った人が今できていることを認める ③精神的な拠りどころの必要性 ・こころの支えとなる人 ・男女別の比較

					④生きがいと意欲 4.老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因 ① 人間としての存在価値の喪失感 ② 障害受容のプロセス ・ショック期 ・否認期 ・混乱期 ・努力期 ・受容期 ③ 自我の再生支援 ④ 行動変容支援と動機づけ **【演習の実施方法】** なぜ、専門性のある介護が必要なのか（我流の介護が良くないのか）を話し合う。
（3）介護に関するからだのしくみの基礎的理解	**6**	－	－	**6**	**（内容）** 1.健康チェックとバイタルサイン ① バイタルサイン ② 体温と脈拍の測定 ・体温、呼吸、脈拍 ③ 血圧の測定 ④ 顔色・皮膚などの全身観察 ⑤ 訴えと健康チェック ⑥ 利用者の様子の普段との違いに気づく視点 ⑦ 生命の維持 2.骨・関節・筋肉に関する基礎知識 ①骨 ・骨の役割、骨の構造、機能、形成と維持、骨格、靭帯・腱・軟骨 ②関節 ・関節の構造と機能 ・関節可動域 ③筋肉 ・筋肉の構造と機能 ・筋力低下 3. 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ① 神経系の分類 ・中枢神経系 ・末梢神経系（体性神経の機能、自律神経の機能） 4.自律神経と内部器官に関する基礎知識 ①血液と免疫系 ・血液の構成成分と機能 ・免疫系のしくみ（自然免疫と獲得免疫、骨髄系細胞とリンパ系細胞、加齢の伴う免疫系の変化） ② 心血管系 ・血管系のしくみ ・心臓のしくみ ③呼吸器系 ・呼吸器系の構造（呼吸器系の役割と鼻腔から気管支まで、気管支から肺胞まで） ・酸素と炭酸ガスのガス交換のしくみ ・肺気腫 ④消化器系 ・消化器系の構造と機能 ・消化器の働きを助ける消化液など

					⑤腎・泌尿器系 ・腎・泌尿器系の構造 ・腎臓での尿の生成 ⑥内分泌系 ・内分泌と外分泌 ・内分泌の種類 ・内分泌腺の種類 ⑦生殖器 ・男性生殖器の構造 ・女性生殖器の構造 ⑧　皮膚 ・皮膚の構造と機能 **【演習の実施方法】** バイタルチェックの血圧測定を、実践してみる。 ボディメカニクスを考慮した安定した姿勢について、自分の体を使って理解する。
〔Ⅱ　生活支援技術の学習〕 **（4）生活と家事**	3	－	－	3	**（内容）** 1.生活と家事 ①人の暮らし ・生活の捉え方 ・暮らし方の多様性 ・介護の社会化（家族介護から社会的介護へ、介護は社会サービス化） ②衣食住の環境整備 ・家事援助の目的と機能 ・身体介護と家事援助・生活援助の相違 2.家事援助の基礎知識と生活支援 ①個別性の尊重、個人の価値観、生活歴 ・個別性の尊重 ・生活習慣の尊重 ・意欲を引き出す生活支援 ②信頼関係の形成 ・信頼関係の形成 ・守秘義務 ③自立支援 ・生活意欲の向上 ・介護予防としての生活支援 ・介護保険対象外の行為 ・介護保険の保険給付の対象外サービスの要求への対応 **【演習の実施方法】** 「ひとり暮らし」の援助を想定して、グループで話し合う。
（5）快適な居住環境整備と介護	3	－	－	3	**（内容）** １．快適な居住環境に関する基礎知識 ①人と住まい ②高齢者に必要な住まいの性能 ・住まいの明るさ ・住まいの音 ・住まいの温度 ・住まいの整理整頓 ２．介護保険による住宅改修

					①住宅改修サービスの目的 ②介護保険による住宅改修の概要 ・住宅改修費の支給 ・給付範囲 ３．福祉用具に関する基礎知識 ①福祉用具の概念 ・人と道具の関係 ・法律における定義・ICF と福祉用具 ②代表的な福祉用具の理解 ・自立支援と福祉用具 ・車いす・車いすの付属品 ・特殊寝台・特殊寝台の付属品 ・その他の福祉用具（床ずれ防止用具、体位変換器、手すり、スロープ、歩行補助具、認知症老人徘徊感知器、移動用リフト、つり具、排泄関連用具、入浴補助用具） ③介護保険制度上の福祉用具貸与・購入費の支給 ・保険給付のある福祉用具貸与・購入 ・購入費の支給 **【演習の実施方法】** 高齢者、障害者特有の居住環境整備について、事例に基づき、住宅改修の実際を検討する。
（6）整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	**6**	－	－	**6**	**（内容）** １．整容に関する基礎知識 ①整容行動とは ・整容の意義（生理学的側面、社会的側面、精神的側面） ②具体的な整容行動 ・爪切り（介護従事者による爪の手入れ、爪の構造と役割、よくみられる爪のトラブル） ・口腔ケア（口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎の内容、義歯の種類と役割） ③衣服の着脱 ・衣服の意義 ・身体状況に合わせた衣服の選択 ・マヒがある人への介護の基本 ・整髪（毛髪のしくみ、整髪の意義） ・洗面 ・化粧 ２．整容の支援技術 ①爪切り ・爪切りの種類 ・爪切りのポイント ②口腔ケア ・歯ブラシによる口腔ケア（ブラッシング法） ・含嗽法（うがい法） ・口腔清拭 ・義歯の装着方法 ・義歯の清掃・保管 ③身体状況に合わせた衣服の着脱 ・片マヒの人が座位で行う前開き上着の交換 ・片マヒの人が座位で行うズボンの着脱 ・パジャマの交換 ・和式寝間着の交換

					【実技演習の実施方法】 衣類の着脱（グループにてモデル/介助者） 口腔ケア
（7）移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	－	－	6	（内容） １．移動・移乗に関する基礎知識 ①移動・移乗介助の意義・目的 ・円滑な日常生活の確保 ・心身機能と健康状態の保持 ②残存能力の活用・自立支援 ・残存能力の活用 ・自立支援 ③利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ④重心・重力の働きの理解 ・重心の位置 ・重心線 ⑤ボディメカニクスの基本原理 ⑥ボディメカニクスの原則 ・利用者と介助者の身体に近づける ・支持基底面積を広くする ・重心を低くする ・大きな筋群を使用する ・てこの原理を応用する ・足先を動作の方向に向ける ・対象を小さくまとめる ２．移動・移乗のための用具と活用方法 ①福祉用具を活用する意義 ②福祉用具の種類とその活用方法 ・杖・歩行器の種類 ・杖・歩行器の選定と活用方法 ・車いすの種類 ・車いすの基本構造 ・車いすの選定と活用方法 ・その他の福祉用具（下肢装具の種類と活用方法、手すりの種類と活用方法） ３．負担の少ない移動・移乗と支援方法 ①活動の低下が及ぼすからだへの影響 ・廃用症候群（生活不活発病）とその予防 ・褥瘡とその予防 ②活動の低下が及ぼすこころへの影響 ③体位交換 ・体位の種類（仰臥位、側臥位、腹臥位、端座位、長座位、起座位、立位） ・深く安定した姿勢での座位（座位による生理的・心理的変化、バランスのよい正しい座位） ・安楽な体位の保持 ・体位交換の具体的な方法 ④移乗の介助 ・全面介助でのベッドから車いすへの移乗（左片マヒの場合） ⑤歩行の介助 ・通常の歩行 ・歩行の介助の基本 ・Ｔ字つえの歩行介助（平坦な道の場合、3 点歩行と２点歩行、介助者の位置）

					⑥視覚障害者の移動介助 ・基本姿勢 ・基本姿勢をとる ・平坦な道の移動介助 ⑦車いすの介助 ・車いすの基本操作方法（車いすのたたみ方、車いすのひろげ方、ブレーキのかけ方と押し方、キャスターの上げ方） ・車いすによる移動介助の具体的方法（全面介助での平坦な道の移動、でこぼこ道の移動、段差の移動、上り方・下り方、上り坂・下り坂の移動） ４．移動と社会参加の留意点と支援 ①日常生活の活性化 ②外出の介助 ・事前準備 ・外出直前 ・外出中 ・外出後 ③社会参加の意義 **【実技演習の実施方法】** ベッドの上での体位交換 車いすの操作と介助方法 歩行の介助（杖、アイマスクの着用）
（8）食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	**6**	－	－	**6**	**（内容）** １．食事に関する基礎知識 ①私たちの生活における食事の意味 ・私たちの生活における食事の意味 ・心理的欲求の充足 ・文化的欲求の充足 ②食事摂取のしくみ（食事摂取の５段階） ・食事の摂取（認知期、準備期、口腔期、咽頭期、食道期） ・消化・吸収・排泄 ③加齢や障害に伴うさまざまな症状 ・脱水 ・低栄養 2.食事環境の整備と用具の活用方法 ①食事の関連した観察のポイント ・生活リズムの把握 ・食習慣や食文化の把握 ・利用者の心身状況（ADL，疾病、健康状態）の把握 ②適切な食事環境 ・食事環境（快適な食事環境、一日の日課に位置づける、利用者の意向を尊重する。） ・食事姿勢 ③調理、配膳上の工夫 ・盛り付けや配膳の工夫 ・心身状況に応じた食形態 ④自助具等の活用 ・食具、 ・食器など 3.楽しい食事を阻害する要因と支援方法 ①さまざまな状態像に合わせた介護方法 ・上肢機能に障害のある人の場合

					（具体的な状態像、状態に合わせた介護方法） ・臥床状態で食事をする場合 （具体的な状態像、状態に合わせた介助方法「一部介助」「全介助」、その他の注意点） ・視覚に障害のある人の場合 （具体的な状態像、状態に合わせた介助方法、その他の注意点） ・認知機能に障害のある人の場合 （具体的な状態像、状態に合わせた介助方法） ・食事制限のある人の場合 （高血圧、糖尿病、脂質異常症） ②誤嚥した場合の対応 ・背部叩打法 ・ハイムリック法（腹部突き上げ法） ③食事介護における観察のポイントと記録 4、食事と社会参加の留意点と支援 ①食事介護の社会的側面 ・食事をすることの社会的な意味 ・献立や調理法を一緒に考える ②口腔機能 ・口腔の働きと口腔ケア（口腔の働き、口腔ケアの必要性） **【実技演習の実施方法】** 食事介助の実際 とろみを利用した水分摂取 嚥下体験と対応方法
（9）入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた支援	**6**	－	－	**6**	**（内容）** 1.入浴と清潔保持に関する基礎知識 ①入浴の介護 ・入浴の効果 ・入浴に関する基礎知識（利用者への説明と同意、健康状態の確認、食前と食後の入浴を控える、浴室と脱衣場の温度設定、末梢から中枢へ、湯温、湯量、入浴時間、全身状態の観察、保温、水分補給） ・快適で安全な入浴環境（脱衣場、脱衣場と浴室の段差、扉、浴槽、浴室内のてすり・滑り止めマット等、機械浴槽） ②清拭の介護 ・清拭の効果 ・清拭に関する基礎知識（室温設定、ウォッシュクロスの温度、全身状態の観察） 2.入浴と整容の用具の活用方法 ①シャワー浴・一般浴（片マヒ利用者）の介助 ・シャワー浴 ・一般浴（片マヒの利用者）の介助（シャワーチェアから浴槽へ入るときの介助、浴槽から出るときの介助） ②清拭の介助 ・必要物品 ・全身清拭の介助（顔の清拭、上肢の清拭、体幹の清拭、下肢の清拭、陰部・臀部の清拭） ③手浴・足浴の介助 ・手浴の介助（必要物品、手浴の介助）

					・足浴の介助（必要物品、足浴の介助） ④洗髪・ひげ剃りの介助 ・洗髪の介助（必要物品、洗髪の介助） ・ひげ剃りの介助 3.楽しい入浴を阻害する要因と支援方法 ①入浴に際したリスクと対応 ③　認知症高齢者の入浴に際したリスクと対応 **【実技演習の実施方法】** 入浴介助の実際（片マヒ等の浴槽での介助） ケリーパッドを利用した洗髪介助 足浴の介助
（10）排泄に関連したこころとからだのしくみと自立支援に向けた介護	**6**	－	－	**6**	**（内容）** 1.排泄の関する基礎知識 ①排泄の意義 ・身体面（生理面）における排泄の意義 ・心理面における排泄の意義 ・社会的な側面からみた排泄の意義 ②排泄のメカニズム ・排尿のメカニズム ・排便のメカニズム ③排泄障害 ・失禁（尿失禁、便失禁） ・頻尿 ・排尿困難、尿閉 ・便秘 ・下痢 2.排泄環境の整備と用具の活用方法 ①排泄しやすい環境整備 ・トイレの環境 ・居室での排泄環境 ②排泄用具の選択と活用方法 ・便座 ・ポータブルトイレ ・手すり ・尿器・便器 ・失禁ケア用品 ・オムツ 3.爽快な排泄を阻害する要因と支援方法 ①排泄に影響を及ぼす要因 ②排泄障害が日常生活に及ぼす影響 ・身体面に及ぼす影響 ・心理面に及ぼす影響 ③排泄を支援する際の基本原則 ・プライバシーの確保 ・自立支援 ・個人の排泄習慣の尊重 ④排泄支援の実際 ・一部介助を要する利用者のトイレ内での排泄介助の具体的方法 ・ポータブルトイレの介助 ・ベッド上での介助 ・尿失禁の把握と対応 ・便秘の予防と便秘時の介護（食生活、排泄習慣、運動、その他）

					・下痢への対応 **【実技演習の実施方法】** 排泄介助の実際（ポータブルトイレ、尿器） おむつの着脱の介助
(11) 睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	**6**	－	－	**6**	**（内容）** 1.睡眠に関する基礎知識 ①睡眠の基礎知識 ・日常生活のパターン ・睡眠の仕組み ②睡眠の役割 ③睡眠障害の種類 ・高齢者の睡眠の特徴 ・睡眠障害の種類（入眠障害、中途覚醒、早朝覚醒、熟眠障害、） 2.睡眠環境と用具の活用方法 ①よく眠るための寝室（環境整備） ・温度と湿度 ・光 ・音 ・臭い ②快適に休養するための寝具と知識 ・ベッド・布団 ・マットレス・敷布団 ・シーツ ・掛布団・毛布 ・枕 ・寝具の管理 3.快い睡眠を阻害する要因と支援方法 ①睡眠を阻害する要因 ・加齢による変化 ・環境要因 ・心理的要因 ②安眠のための介護の工夫 ・睡眠環境の調整 ・心理的ストレスの軽減 ・身体的要因の緩和（仰臥位、側臥位、半座位） ・生活リズムの調整（規則正しい生活、食事と運動、光の利用、昼寝） **【実技演習の実施方法】** 寝室の環境設定、家具、就寝時の衣服の選び方についてグループで話し合う。
(12) 死に行く人に関したこころとからだのしくみと終末期介護	**6**	－	－	**6**	**（内容）** 1.終末期に関する基礎知識 ①終末期ケアとは ②住み慣れた場所で最期を迎えるための終末期ケア 2.生から死への過程とこころの理解 ①高齢者の死に至るパターンとケアの特徴 ②終末期の身体的特徴と苦痛を和らげるケア ・嚥下機能 ・皮膚の状態 ・呼吸の状態 ・口腔内の状態 ③終末期の心理状態

					3.苦痛の少ない死への支援と他職種との連携 ①ケアプランに基づいた介護 ②介護従事者の役割と他職種との連携 ③全身状態の観察 ④誤嚥の防止と嚥下状態の観察 ・誤嚥させない食事介助の方法 ・嚥下の確認 ⑤心理状態の観察 ⑥介護従事者の基本的態度 **【演習の実施方法】** 死に至る過程の事例をもとに、看取りの場面で行う支援について話し合う。
(13) 施設実習（より効果的な研修となることをめざし実習を７時間実施することができる）			**6**	**6**	**更によりよい効果的な研修となるように実施**
〔Ⅲ　生活支援技術演習　〕 **(14) 介護過程の基礎的理解**	**5**	－	－	**5**	**（内容）** 1.介護過程の基礎的理解 ①科学的思考と介護過程 ②介護過程の展開に必要な構成要素 ・アセスメント ・介護計画（介護目標、具体的な支援内容の決定） ・計画内容に沿った実施 ・評価・修正の留意点 **【演習の実施方法】** グループに分かれ、介護過程の曲がれ（アセスメント、計画立案、実施、評価）について、事例をもとに検討する。
(15) 総合生活支援技術演習（事例による展開）	**5**	－	－	**5**	**（内容）** 1.総合生活支援技術演習（事例による展開） ①事例１ ・衣服着脱の介助（起床後の着替え） ・移動の介助（車いすへの移乗） ・食事の介助（食事・口腔ケア） ・排泄の介助 ・入浴の介助 ②事例２ ・衣服着脱の介助（起床後の着替え） ・移動の介助（車いすへの移乗） ・食事の介助（食事・口腔ケア） ・排泄の介助 ・入浴の介助 **【実技演習の実施方法】** 事例を通して、具体的な介護内容や介護の留意点について考察する。 ・要介護４の方の衣服の着脱、車いすへの移乗、食事・口腔ケアの介助、排泄の介助、入浴の介助 ・要介護１の方の衣服の着脱、車いすへの移乗、食事・口腔ケアの介助、排泄の介助、入浴の介助

					また、学んできた一連の介護の技術を十分活かして、実技演習を行う。

（様式第４号－２）

研　修　区　分　表

平成 25 年 9 月 20 日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
10　振り返り（4時間）	**4**	－	－	**4**	**（到達目標・評価のポイント）** 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。 **（指導の視点）** ・ 在宅、施設の何れの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習（身だしなみ、言葉遣い、応対の態度等の礼節を含む。）を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。 ・ 研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させた上で、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。 ・ 修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。 ・ 最新知識の付与と、次のステップ（職場環境への早期適応等）へ向けての課題を受講者が認識できるよう促す。 ・ 介護職の仕事の内容や働く現場、事業所等における研修の実例等について、具体的なイメージを持たせるような教材の工夫が望ましい。（視聴覚教材、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習･見学等）
（1）振り返り	**2**	－	－	**2**	**（内容）** 1. 研修を通して学んだこと 2. 今後継続して学ぶべきこと 3. 根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体、心理、社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等） **【演習の実施方法】** 研修で学んだことについて、グループワークを通して話し合い、整理する。
（2）就業への備えと研修修了後における継続的な研修	**2**	－	－	**2**	**（内容）** 1. 継続的に学ぶべきこと 2. 研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例（Off－JT、OJT）を紹介